

アメリカの寡頭政治と

政治を墮落させるカネの力

2015・9・25 須田 稔

メラノーマの第4段階の手術を控える91歳のカーター元大統領が、連邦最高裁の「Citizens United」判決から6年が経過した現在の政情について、ワシントンにはカネに影響されて墮落してきたと嘆いた。

「今は民主政治でなくて寡頭政治になっています。」9月22日、オプラ・ウィンフレイのインタビューを受けて語った。「アメリカの政治制度に対する、その基本的モラルと倫理的基準にたいする最悪のダメージは、生涯初めて目にするものです。」

そういう状況で、大統領になれますか、と聞かれたノーベル平和賞受賞者は「絶対になれませんね」と答えた。「今は、民主党、共和党のどちらでも200〜300ミリオンドル(約240〜360億円)集めることができないうと指名候補になれない。そうする気になれないし、できやうもないもの。」

この莫大なカネは、一握りの国内最富裕者の寄付金なのだ。報道によれば、これまでに両陣営に寄せられた388ミリオンドルの半分は、400家族からのもので、うち62人は少なくとも100万ドルを拠出したという。(Commandreams.org September 23)

アメリカにはカネを稼ぐ刑務所があるのだ

大統領候補予備選に立つ無所属のバーニー・サンダー氏の論評が9月23日のcommondreams.orgに「営利刑務所は終息すべし」と題して公表された。要旨を紹介しよう。

人びとを投獄し、彼らの友人や家族を苦難に陥れることでカネを稼ぐのは間違っている。合州国は人間悲劇を体験中だ。共産主義中国を含む地球上のどの国よりも入獄者は多いのである。世界人口の5%以下なのに、世界の入獄者の4分の1、約220万人なのだ。

この悲劇の解消の方法はいくつもあるが、一つは民間の営利刑務所産業の存在を終わらせることだ。彼らは政治過程を腐敗させて囚人を増やしているのだ。

囚人だろうと拘留中の移民だろうと、人を鉄窓に押し込んでカネを稼ぐなど誰にも許されないことだ。民間刑務所など存在してはならないのだ。だから私はその廃絶を目指す法案を提起した。

営利刑務所はマイノリティーに危害を加えた。現在の傾向が続くと、これから生まれる黒人男性の4人に1人は生涯で投獄を経験することになる。ハイスクールを落第するアフリカ系アメリカ人男性の69%は刑務所暮らしで終わる、という最新の統計がある。司法省の報告では、停止信号中に取調べを受ける自動車運転者は黒人が白人の3倍。逮捕される黒人は白人の3倍。警察の実力行使に遭うのは白人のほぼ4倍、投獄されるのは6倍。

営利刑務所内の囚人虐待の例を見ると、ネズミがかじった食物、腐った食品が出された。スタッフが子供を使ってほかの子供に危害を加えさせる。看護師の患者いじめも。移民に対する扱いも同様である。収容人数が過剰で、生活条件は貧弱で不潔。

刑務所産業は大いに儲かるのだ。最大2社は2012年に、政府支払金と、ボーイングやマクドナルドのためにハンタガネで働かされる刑務所労働者からとで33億ドルを稼いだ。ある会社は過去13年間に、共和、民主、無所属候補に1000万ドル以上献金した。

1990〜2010年に、営利刑務所の数は1600%増加(?)。130の民営刑務所が15万7000床を備える。

獄中の人と言葉を交わすのに家族や友人に1分毎1ドル払わせる電話会社。270万人の子どもが親は獄中だ。この会社は年に500ミリオンドル(約600億円)以上稼ぐ。

「自由と民主主義のアメリカ」なのか？